

(学校番号77) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【海老沼小学校】

4月26日 目標・策		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より算数(特に図形分野の)「知識・技能」において2pt向上させる。国語(特に言葉分野の)「知識・技能」において3pt向上させる。	⇒ 「スタディサプリ」等の活用、漢字や計算の反復練習に取り組む。自主学習を推奨する中で、学習記録を残して学期ごとにふり返る機会を設ける。
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より国語「思考・判断・表現」において3pt向上させる。	⇒ モデルとなる正当例や評価の基準を示すようにしたり、「オクリンク」活用による児童一人ひとりの思考の過程を可視化し、共有化したりすることで思考の深まりをもたせる。表現力向上のために教科横断的に発表発言の機会を多くもたせる。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「算数の解き方がわからない時はあきらめずいろいろな方法を考えますか」の設問に対し、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 海老沼スタンダードをもとにした「見通し」や「自力解決」を学習活動中に意図的に設ける。また「個別最適化学習」になるような多くの解き方やものごとのえ方を児童同士や教員から伝える機会を設ける。

9月2日 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より算数(特に図形分野の)「知識・技能」において2pt向上させる。国語(特に言葉分野の)「知識・技能」において2pt向上させる。	⇒ 基礎基本の反復を行い活動を振り返るとともに、各授業の導入やまとめの時間に用語・名称の確認をするなど知識の定着をはかる。
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果より国語「思考・判断・表現」において2pt向上させる。	⇒ 年度当初からの手立てに加え、授業内で思考を伴う問いや文章問題を多く扱い、児童が取り組む機会を意図的に設ける。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「算数の解き方がわからない時はあきらめずいろいろな方法を考えますか」の設問に対し、肯定的な回答の割合を85%以上にする。	⇒ 引き続きスタンダードに基づいた学習活動のもとで、個別最適の機会を設けるとともに、より実生活に根ざした必要感のある課題を児童と共有できるよう展開を工夫する。

8月23日	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>国語：思考・判断・表現力については、理解・定着している児童が多い。知識・技能に課題が見られる。特に、語彙・漢字の表記に無回答の児童が多数いる。業前の時間や国語の学習の中で、語彙や漢字の表記に繰り返し取り組む機会を意図的に多く設け、定着を図る。また、業前以外にも本を読む機会を設け、言葉に触れる時間を多くする。</p> <p>算数：領域別に見るとデータの活用、特に生活に根ざした割合の問題を正しく把握できていない児童が多い。全体として、文章題に無回答が目立つ。基本の計算や考え方は身につけている児童が多いので、業前の時間や算数の学習で基礎や基本を繰り返し、定着を図るだけでなく、自信をつけさせたい。スタディサプリ、ドリルパーク等で児童一人一人の進度に応じた適用問題に取り組ませたい。</p> <p>理科：B区分については良好であるがA区分(特に粒子を柱とする領域)で実験器具の名称、思考を伴う記述の問題に課題をもつ児童がみられる。思考力を伸ばすために、基礎基本の定着をより一層図っていききたい。また、「何のためにその実験を行うのか」「その実験を行ったことで何がどうなったのか、そこから何が言えるのか」を児童に問いながら、自分の言葉でまとめる機会を設ける。</p>	

2月〇〇日 さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3		小4	
小5		小6	

2月〇〇日 成果指標に対する達成状況		評価(※)
知識・技能		
思考・判断・表現		
主体的に学習に取り組む態度		

3月〇〇日 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

※評価

- A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)